

あさみ会報

朝見まちづくり協議会
あさみ会報編集部
発行責任者・鈴木三千夫
松阪市大宮田町 209-4
朝見地区市民センター内
電話 0598-62.0007
2010.7.28 発行
第 24 号

実践的防災訓練

平成22年7月4日10時から、朝見小学校にて防災訓練を実施。前日は雨の中、明日の天気を期待して準備を行う。今回は、県防災ヘリへ飛来を要請して、子どもたちの防災意識を高めよう。天候が良ければ飛来、悪ければ諦めて下さいとのこと。本番の4日朝には、予想を裏切る天気・曇りから晴天へと。昨日とは見違えるような天候のもとで訓練を行うことができた。各町が徒歩にて、訓練会場の週学校に通学路を避難する。開会式のあと、小学校・幼稚園の避難訓練がありました。地震の発生とともに、机の下に身をを守る行動をした後、参加者が見守る中、一斉に運動場へ避難。全員無事に避難訓練を終えました。開会式10町が避難をして、運動場に325名が集う。防災訓練の目的、テーマ、具体的な訓練で安心の地域づくりの自ら地域の災害をイメージして、来るべき災害に対応できる訓練を行い、一人も犠牲者を出さない。1.全員参加の防災訓練。2.共助を養う防災訓練。3.将来に通ずる防災訓練として開催。田村 正(会長)災害対策本部長が、地域で守り合う共助力を高める

訓練として、最後まで無事故で行おう。来賓挨拶に、田中祐治市議会議員が挨拶。避難状況を、橋本直也防災副会長が報告、住民325名が無事避難をしたことを報告。続いて、西田益彦民生委員より朝見地区内の要援護者の方々が全員無事に避難したことを報告。中西徳生消防団長が本日の訓練内容を説明。消火器による消火訓練・消火器の扱い方、消火ポイントを学び、実践した。濃煙体験・10メートルほどの煙の中を避難、煙に巻かれてどう避難ができるか。参加した小さな子どもも驚きながら、抜け出た。救助袋脱出訓練・校舎の3階に設置されている脱出シユータを活用して、怖がらずに退避出来るように訓練、現代はビルが多く経験が必要。起振車による地震体験・実際の地震の揺れを体験することによって、とっさに自分を守る事を身につける。バケツリレー・応急の消火には威力を発揮、みんなで協力する訓練。要援護者避難訓練・要援護を必要とする方や高齢者の安全を守ることを、避難所生活を快適に出来るようにと、隣接する「さくらテラス」と非常時協力事業所契約、訓練に参加して大声大会・とっさの時は声を出不ないことがある。助けを求め、報告をする、そのよ

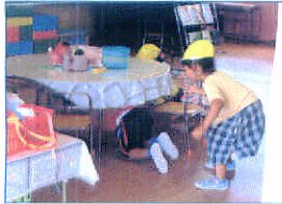
地区あげて防災訓練・朝見小学校、幼稚園見も全員参加。

小学校幼稚園 避難訓練では机の下で身を守り、整列して運動場へ避難、みんなで見守る。朝見の訓練に、三重県防災ヘリが応援飛来、全員が手を振ってこたえる。公的立場に立つ責任感が、地域を大きく守ることになる。



炊き出し訓練・豚汁町代表の炊事班

うな場合大きな声で出来るように。タマゴ殻によるガレキ疑似体験・震災では家の外ガレキに埋まってしまう。避難の時などにケガの内容、スムーズに避難出来るようにと、倒壊家屋からの救出訓練、消防士による模範訓練を見学。子供たちや参加者が実践的な訓練を真剣な眼差しで見つめる、その後自主防災隊の代表が訓練を行った。被災者の見つけ方、励まし方、救出の在り方など実践的救出を学ぶ。昼食には、各町炊き出しの「おにぎり」と豚汁で昼食とした。弁当とか「おにぎり」も買って来て調達をしては？との意見もあるが、非常時に町別に炊き出せることが大事。放水訓練・各町で保有しているポンプによる一斉放水、日頃の点検と操作に熟練することが大事。大災害は想像を絶する悲惨な状況です。生活ラインが全てストップすることのようない地域域なるか。最悪の被災状況を想定して、救助に重きを置いた実践的な防災訓練。



幼稚園。机の下に隠れる。



煙のトンネルを抜ける。



上空を旋回する県防災ヘリ。



開会式で挨拶する山中市長



開会式直前の様子。



教室から避難して運動場へ。



足を守るスリッパ作り。



要援護者移送訓練。



倒壊家屋から救出訓練。



非常時大声が出せるか・・・？
大声大会



消火器訓練。



タマゴの殻の上を歩く。



バケツリレー。



地震体験。

災害時救出協力企業紹介 《朝見地区内の各事業所と災害時の救出作業の協力協定を行っています》 (大宮町) 茂谷工務店・珍田木材有限公司・大徳建設株式会社・上川運送株式会社・JA 松阪農機センター(下七見) 東部建設株式会社 (朝田) 株式会社北川鉄工建設・葵クレーン(佐久米) 小林ファームライズセンター (立田) 宝山石油株式会社・株式会社伊勢クレーン・荒木製材所・中尾木材有限公司・株式会社ミック・鍛冶春建設有限公司・さくらテラス(古井) 有限会社松井工務店・楳産業有限公司・エムエフマツト有限公司・岡田園芸・株式会社サン力機工 (新屋敷) 第一産業株式会社 (上七見) 鈴木為郎農産・(向橋)本電機・奥村農産 (和屋) ススキ産機有限公司・溝口土建・井上組・有限会社安達建設

- ①地域力が沢山の住民を救出する。北淡震災記念公園を視察研修に35名が参加。
- ②本年第1回おやじの料理教室を開催「肉じゃがとイワシの甘煮ときゅうり酢もの」。
- ③第5回作文コンクール作品を募集！防災をテーマにしました。ご応募下さい！
- ④幸地区福祉会の皆様が、朝見まちづくり協議会を視察交流会にみえました。
- ⑤地域境部会 子ども達と一緒に「朝見クリーンアップ」環境美化活動を行う。

①近隣と仲の良い町
地域力が救出出来る

平成22年5月30日
(日) 淡路島・北淡震災記念公園を訪問。今回は、女性の方も多く参加して頂きました。松阪市から4時間、日帰りの研修としては目一杯の時間帯でしたが、実際に起きた地震災害の様子を見学することは大変勉強になりました。13時から、当時の様子を語り部・城下正守氏より当時の様子を伺いました。淡路市(北淡市)は人口1,094人、世帯 3,700戸 戸書家屋 全壊1,056戸 半壊1,217戸 支援(延べ人数)ボランティア 8,500人 自衛隊31,788人 消防10,800人 医療・医師418人 看護師1,370人 被害総額600億円 生命の尊厳(一つしかない生命を大切に!) 1油断大敵 今回の地震 M7.3 震度 7最大の揺れ 18km 40秒間。淡路島は約2,000年間、今回と同じ地震はなく、地震には大丈夫という安全神話が出来ていた。2用意周到①メカニズムの学習・地震の知識が大事である。②避難行動・地震にみまわれたい!①机の下に入る。②火気に注意。③避難準備。④避難所の確認。3臨機応変・地震直後の対応が肝心。①家族の安全確認。②火災の予防。③救出活動(隣近所)初期救出活動。*生き埋め300名 死亡39名 行方不明0名*早朝の地震発生から夕方には町内の災害状況を掌握し、隣近所の人たちが救助活動に全力をあげる。淡路市(北淡町)は壊滅的な被害を受けながら、昔ながらの漁師町で隣近所の絆が強かった。隣同志が顔の見える町内であり、みんなで助け合って生きる地域であった。



第5回視察研修会・北淡震災記念公園 平成22年5月30日(淡路島)

書状況を把握し、隣近所の人たちが救助活動に全力をあげる。淡路市(北淡町)は壊滅的な被害を受けながら、昔ながらの漁師町で隣近所の絆が強かった。隣同志が顔の見える町内であり、みんなで助け合って生きる地域であった。

は、小学校幼稚園全児童が見学参加をする。これから起こりうるであろう東海地震等へ備えを行っている。

②おやじの料理教室

平成22年6月18日 19時より、旬の食材を使った料理に挑戦。毎回、インターネットでレシピを調べて、料理に挑戦。今回は、獲れたての新玉ねぎ、新じゃがが食材にした。レシピ通りに行かないのがオヤジらしさ。ご覧のように、シヤガイモはうまく乱切り、玉ねぎも涙を流しながら。



イワシの煮物は、今回は、煮物に挑戦だから煮ることに専念。醤油、みりん、砂糖を適量に入れ、煮上がった所へイワシとシヨウウチを入れる。タコときゅうりの酢の物、断然きゅうりは会長の自家製。畑から獲って来て食材になった。カボチャとワインナ煮・甘く炊いたが、煮過ぎて半分形が残らなかった。残念でしたが、今回の一番の失敗作・新玉とイカの煮物・玉ねぎの甘みとイカのシンプルさ、美味しい味。新じゃがを入れると「イカじゃが」になりそうなのでイカ・新玉ねぎで仕あげる。

④幸地区福祉会が訪問
みんなで仲良く設立

平成22年7月6日13時30分より、朝見地区市民センター会議室にて開催。幸地区福祉会(会長 松田美智子)の皆様17名が参加されました。ご質問のありましたテーマを元に、スライドを制作。1.設立までの経緯と課題。2.設立後の活動と課題。3.協議会と地域密着型介護施設「さくらテラス」との関係。現在、市内各地域で「まちづくり」が推進され丸となって活動を始めたこと。町別説明会にも沢山集まって頂きました。

⑤地域境部会
朝見クリーンアップ活動

平成22年6月27日(日)午前9時より、各町一斉に地元住民と環境委員と子どもたちが朝見クリーンアップ(環境美化活動)を行う。空き缶・空きビン拾いの朝見クリーンアップデーとして実施。身近な環境美化活動をすることが、ボランティア活動の達成感や意識を高めて行きます。朝見まちづくり協

③作文コンクール・募集
青少年育成部会では、第5回作文コンクールを実施します。子どもから住民まで、地域のみならず参加する作文コンクールです。平成22年7月4日(日)実施の地区ふれあい防災訓練をテーマにしました。また、今までに震災や水害等に遭った経験、災害等に想うことなど、防災関連で広く応募して頂くことになりました。皆さんの貴重な経験やご意見をぜひご応募下さい。第5回作文コンクール応募要項◎応募資格朝見地区に在住の方◎部門①大人の部②学生の部(高校生・中学生・小学生)◎テーマ「あさみ ふれあい防災訓練で思ったこと、感じたこと・・・」

防災について思うこと、災害にあつて感じたこと、原稿枚数400字詰め原稿用紙1〜2枚程度※大人の部については短歌、俳句などでも結構です。◎提出先松阪市大宮田町2-09の4朝見市民センター内朝見まちづくり協議会 青少年育成部会宛◎締め切り平成22年8月20日(金)◎表彰優秀賞・大人の部、学生の部(各学年)*審査委員会にて優秀賞の選出を行います。



幸地区福祉会の皆さんとまちづくりについて。

公民館も各所属団体に説明会を開催して初めての「まちづくり」の理解を得ることができました。地域全体を巻き込む新たな組織作りですが、失敗は許されませんが、役員一同覚悟の「まちづくり」でありました。交流会では、始めに、スライド上映。具体的な質疑応答で、3時間を超えましたが、朝見地区の具体的な取り組みを紹介して、応募することができました。

議会地域環境部会は、地区と学校・PTAが協力し合って空き缶・空きビン拾いの活動と通学路を中心に空き缶拾いを行う。道路や水路、田んぼの中に捨てられた、空き缶や瓶を回収した。



当日参加したメンバー(古井町)作業の様子。